

# 子どものケガと 対処方法

# 5月のほけんだより

令和4年 第258号

呉市役所  
子育て施設課  
0823-25-3144

くれ子育てねっと ほけんだより  
<https://kure-kosodate.com/service/829.html>



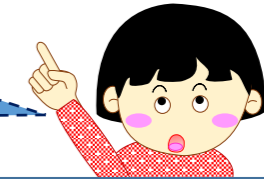
乳幼児期は、好奇心がいっぱい！手先が器用になり、活動も広がりますよ。「昨日できなかった事が今日できるようになる」めざましい成長の時期です。しかし、予測力が未熟で、周りが見えず大人が想像もなかったところでケガをすることがあります。子どもがしやすいケガをピックアップし、それぞれの応急処置をご紹介します。

## こどもの救急電話相談 #8000

すぐに受診させた方がいいのか？翌日までまってもいいのか？判断に迷ったら#8000へ電話で相談しましょう。365日 19:00～翌朝 8:00 携帯電話からも利用できます。

## 夜間や休日に 急病になったら・・・

## チョット ひとこと



### 頭部の打撲

子どもは、頭が重いこともありますが、垂直方向の視野は大人の1/4、水平方向は90度しか見えないため、ぶつかったりつまずいたりしやすいのです。

#### 自宅ですること

- 意識があるか、まず確かめる。(声をかけ、いつものように反応があるか)
- 血が出ている場合は、5分以内に止まったかを確認。

#### こんな時は病院へ

- 嘔吐した(吐いている時は、身体を横向きにして誤飲を防ぐ。)
- けいれんをしている
- 傷口が開いている
- すぐに症状が見られなくても、慎重な経過観察が必要です。

### きり傷

ガラスやハサミなど日常生活で思わぬケガをすることがあります。子どもが切り傷を負ったら、応急処置を知っておくだけで、「万が一」の時に大きく影響します。

#### 自宅ですること

- 水を出しっぱなしにして、患部につけ雑菌を洗い流しましょう。
- もし、出血している場合は、ガーゼやハンカチなどを直接傷口にあてて手のひらで圧迫して止血をしましょう。

#### こんな時は病院へ

- 異物混入が考えられる
- 傷口が熱を持っている
- 傷がなかなか治らない
- 痛みが強い

### すり傷

皮膚がこすれた時などに生じる「すり傷」。傷は浅く出血もひどくないケースがほとんどですが、傷口についた雑菌や汚れが原因で化膿しやすいので、軽視せず適切な応急処置をすることが大切です。

#### 自宅ですること

- 水を出しっぱなしにして、患部につけ流し傷口に付着している土や砂・小石・ゴミなどを洗い流しましょう。きれいになるまで流せば、ばい菌も流れていきます。

#### こんな時は病院へ

- すり傷の範囲や程度のひどい場合は、応急処置後に病院で診てもらいましょう。

### 肘内障

いわゆる「肘が抜ける」と言うことです。急に腕を引っ張ったり、肘をぶつけたりしたときに痛がって腕を下げたまま動かさなくなります。肘内障は再発も起こりうるケガです。

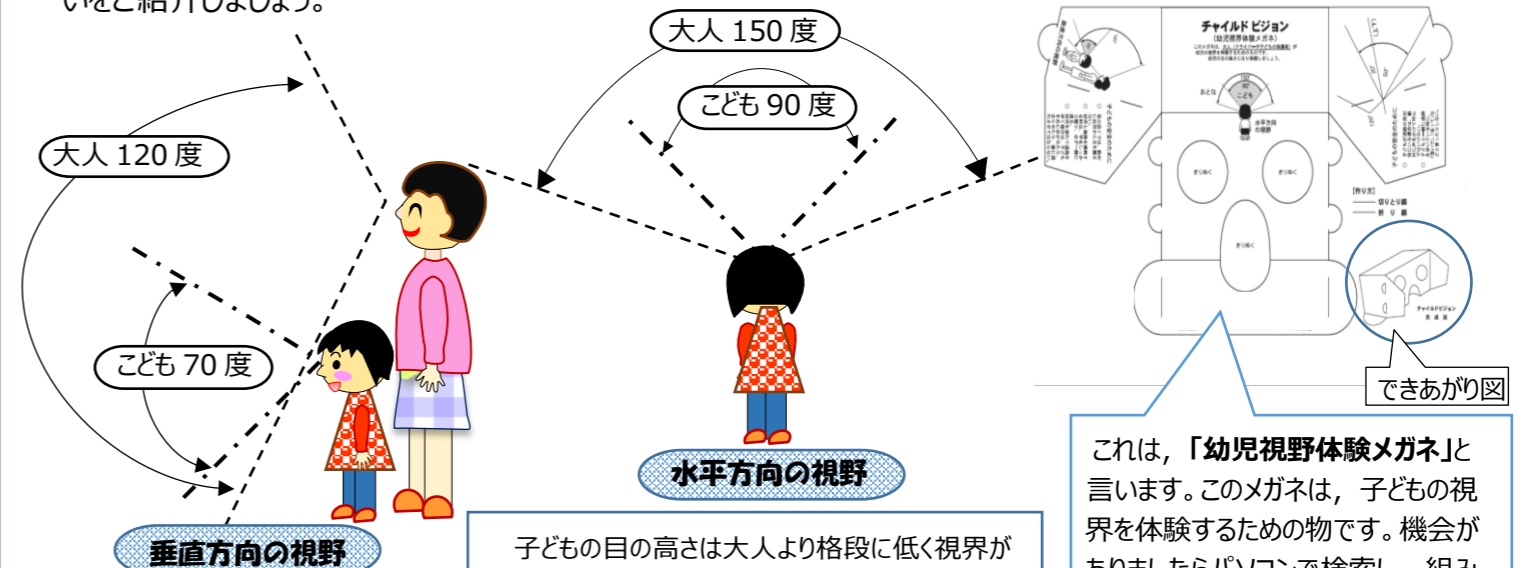
#### 自宅ですること

- できるだけ患部を動かさないようにして、病院を受診しましょう。
- 大人の手で無理やり関節をはめることは絶対にしないでください。

#### こんな時は病院へ

- 腕がだらんとしていて、上がらない。
- 痛がっている。
- できるだけ患部を動かさないようにしながら病院へ

子どもは、日頃から注意がかけられません。子どものケガは、大きく分けて安全管理と安全教育に分けられます。子どもに何が危険なのか、どのように危険なのか具体的に教えていくことも大切です。歩き始めから1～2歳くらいは、転んでもすぐに手が出ません。頭から突っ込んで転ぶため、顔のすり傷や打撲が多くなります。子どもは視力が低く、視野も狭く、視点も低いので段差などが近づかないと見えていないこともあります。大人と子どもの視野のちがいをご紹介します。



子どもの目の高さは大人より格段に低く視界が限られ、一つのものに注意が向くと、周りのものが目に入らなくなくなります。「危ない」「注意しなさい」という抽象的な言葉より具体的に何度も繰り返して伝えてください。

これは、「幼児視野体験メガネ」と言います。このメガネは、子どもの視界を体験するための物です。機会がありましたらパソコンで検索し、組み立てて体験してみてください。

### やけど

比較的多いのがテーブルの上のコーヒーやお茶、スープ等の高温の液体によるやけどです。また、炊飯器の蒸気、湯たんぽ、花火なども原因となっています。

#### 自宅ですること

- できるだけ早くやけどをした部分から熱を取り除きます。患部に直接当てないように水道水を15分以上やさしく流し続け冷やします。
- 服の上からのやけどの場合は、皮膚がはがれることがあるので、服の上から流水をかけます。
- 耳や目など水がかげられない部分は、氷や保冷剤を包んだ冷たいタオルをこまめに交換しながら冷やしましょう。
- ※水をかけすぎて低体温にならないように気をつけてください。

#### こんな時は病院へ

- 子どもの手のひら10個分より大きなやけど(乳児の場合、身体表面積の10%のやけどで生命が危険な状況になるのですぐ救急車を)
- 水ぶくれができていない(水ぶくれはつぶさないで！)
- 傷あとが残る場合があります。患部を冷やしながらか病院へ連れて行き、適切な処置を受けましょう。